

アジア太平洋地域におけるWi-Fi利用動向

Wi-Fiはアジア太平洋地域におけるデジタル経済をささえる基盤となっています。企業はどのようにWi-Fiを活用し、収益にどのような影響を与えているのでしょうか？

※調査期間：2018年4月～5月

1. Wi-Fi接続停止による損失

接続停止頻度

過去1年間で**47%**の企業が少なくとも6回の接続停止を経験している。

事業損失額

5100万ドル

がアジア太平洋地域の合計損失額として計上されている。

2. Wi-Fiのユーザーエクスペリエンスに関する問題

3. 日本はWi-Fiのセキュリティとパフォーマンスに対する期待が大きい

Wi-Fiが快適に利用出来た場所

78%

職場

78%

自宅

社内のWi-Fiセキュリティが十分であると評価しているのは、わずか**37%**のみ。

しかし、アジア太平洋地域において日本のWi-Fiセキュリティとパフォーマンスは最も優れている。

76%はWi-Fi接続速度が一番の懸念事項と認識している。

76%は公共Wi-Fiが快適に利用できなかった経験をしている。

わずか**14%**しか日常的に公共Wi-Fiを利用していない。

日本の回答者の**19%**は過去1ヶ月間に、全くWi-Fi接続に関する問題を経験していない。

アジア太平洋地域の中で日本企業のオープンネットワークへの依存度は最も低い。

4. 今後の対応策

効率的かつ管理が簡単で、あらゆるデバイスで高性能なパフォーマンスを発揮する弾力性と拡張性の高いネットワークを構築する。

将来のユーザーのために**802.11ax**や**WPA3**などの最新の接続技術を活用する。

認証および暗号化技術の利用など、ネットワークにとって最も安全なセキュリティ対策を実施する。

詳細はラッカスネットワークスのウェブサイトをご覧ください www.ruckusnetworks.com/ja

アジア太平洋地域Wi-Fi利用動向に関する調査は、5つの地域で1200人を対象とした。

- 中国、香港、台湾、オーストラリア、日本、インド、シンガポール、インドネシアの8つの市場からそれぞれ最低100人を抽出した。
- 企業でデジタル戦略に携わり、事業、及びITに関する意思決定権を持つ従業員・役員を対象とした。45%は経営陣を含む事業に関する意思決定権を持つ役員、55%は最高情報責任者などITに関する意思決定のある従業員・役員が回答者である。
- シンガポールの回答者の82%は従業員250人以上の企業で事業およびIT関連業務に関わる経営陣である。
- 調査対象の業界は教育、政府、医療、製造、小売、観光・ホテル業が含まれる。